

都道府県別賞一等

生命保険は私達の味方

京都府 京都市立松原中学校 一学年

福井 梨央

「生命保険」と聞くと誰かが死亡した時にお金もらえるといった抽象的なイメージしか湧かない。そのため、生命保険をあまり身近に感じる事ができないのだ。しかし今回様々なことを調べていくにつれて、保険には多くの種類があることを知った。中でも医療保険は、病気を患った時にお金が出る仕組みで特に身近に感じられた。

私の祖父はお酒とたばこが大好きなこともあって、二〇一九年に食道ガン、昨年、下咽頭ガン、そして今年、肺ガンになった。そのためここ数年で何度も手術や入院を繰り返している。だが、私の知っている姿は全然違っていた。二十時に就寝し、四時に起きる。そしてコーヒーを入れ、バタートーストを食べ、早朝からゴルフに行き、銭湯に入って帰宅する。毎日元気いっぱいの生活を送っているのだ。ガンは生死に関わる大病という印象が強かったため、ガンになった時にはもう声が聞けなくなるのではないかと不安に思い祖父の家へ会いに行ったり電話も沢山した。このようにガンにかかったことを知った時、本当に信じられない気持ちだった。

そんな祖父は二十一歳の時に生命保険に加入していた。この作文を書くために祖父に保険についての話を聞くと、
「生命保険は誰かが死亡した時だけではなくて、病気にかかり入院や治療をした時にも保険金が出るんだ。」

と教えてくれた。さらに、保険に入りお金が少し戻ってくることはとても助かると話していた。生命保険のおかげで自分に合った治療を受けることができ、食道ガンと下咽頭ガンの手術は無事成功した。もう一度元気な姿が見られた時は本当に嬉しかった。

また、肺ガンには放射線治療、手術、化学療法があり、今祖父はその中でも放射線治療を受けている。三つの中でも早期の肺ガンの放射線治療のほとんどは近年健康保険が適用されるようになったものの、それまでは全額自己負担だった。この高すぎる費用に治療を断念した人もいたかもしれない。そんな状況下でも生命保険に入っていれば、放射線治療で保険金が出る。保険に入っていることで、自分の命を守るために最適な治療を受けることができるのだ。肺ガンの治療は今受けているところだが、いつも私のことを気にかけてくれる祖父が大好きなので、無事成功して、早く元気になってほしいと心から願っている。

第63回中学生作文コンクール

これまで私は、保険に入っているけど使う時がないなら意味ないんじゃないかと考えていた。しかし病気には誰でもなるし、いつなるかも分からない。病気にかからないのが一番良いが「もしも」への備えで自分の心に少しでも余裕ができると思う。「備えあれば患いなし」ということわざがあるように、元気なうちから保険に加入できるのはとても良いことだと実感できた。このように、生命保険は私達の味方だ。私も将来自分で保険料を支払えるようになったら生命保険に入って、「もしも」の時に備えていきたい。今回の作文を通して、病気になっても人生豊かに過ごせると前向きな気持ちになった。